

釧路公立大学地域経済研究センターによる これまでの釧路経済の自立的発展を目指した 観光経済効果研究

～10年にわたる研究成果と釧路市の観光政策

●継続的な釧路公立大学地域経済研究センターの観光研究

釧路公立大学地域経済研究センターでは、財団法人日本交通公社と共に2000年度(平成12年度)以降6年間にわたり、釧路市を中心とする釧路根室地域をフィールドとした「地域観光の地域自立型産業への展開」に向けての研究に継続的に取り組んできました。

この研究では、同地域における観光の経済波及効果を提示した上で、観光の経済波及効果を高めるための施策を体系化。さらに、釧路市の大いな観光魅力のひとつである“食”に焦点を当て、食との連携による観光産業の展開方向を示しました。さらに、標津町や弟子屈町においても観光経済効果の調査研究を行



●釧路市の観光政策に活かす

こうした研究成果を活かし、釧路市は釧路公立大学地域経済研究センターと共に『釧路市観光振興ビジョン』を策定しました。

2005年(平成17年)10月に1市2町が合併して発足した新生・釧路市では、観光振興を産業再生の柱のひとつとして位置づけています。2007年(平成19年)3月に策定されたこの『釧路市観光振興ビジョン』では、釧路市の観光振興が目指すべき姿(目標像)を示すとともに、目標を達成するための戦略と具体的な施策を示しています。



●より質の高い観光政策の構築に向けて —釧路市における観光消費の経済効果分析の実施—

『釧路市観光振興ビジョン』では、目標を実現するための戦略のひとつとして「観光データ整備戦略」を示しています。釧路市において観光産業が基幹的産業としての力強い発展を図っていくためには、観光の経済波及効果の実証的、科学的な分析が必要です。

そこで、釧路市を訪れる観光客の実態をデータで把握するとともに、釧路市産業連関表をもとに釧路公立大学において分析用産業連関表を作成。これを活用した釧路市における観光の地域経済効果分析を行いました。

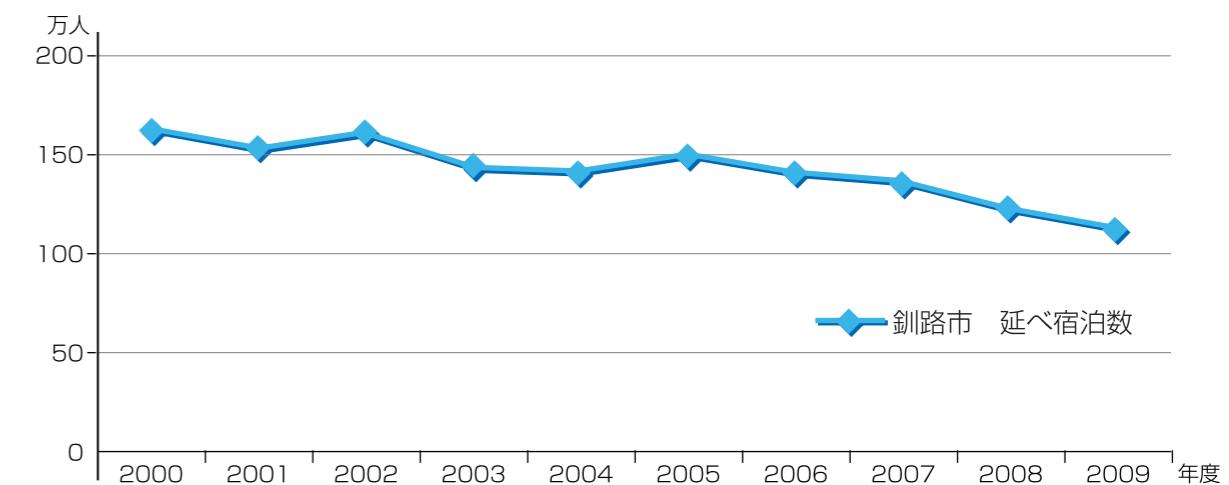
釧路市の観光客数 10年間の推移

～札幌市、函館市に次いで宿泊客数の多い釧路市 ここ数年は減少傾向

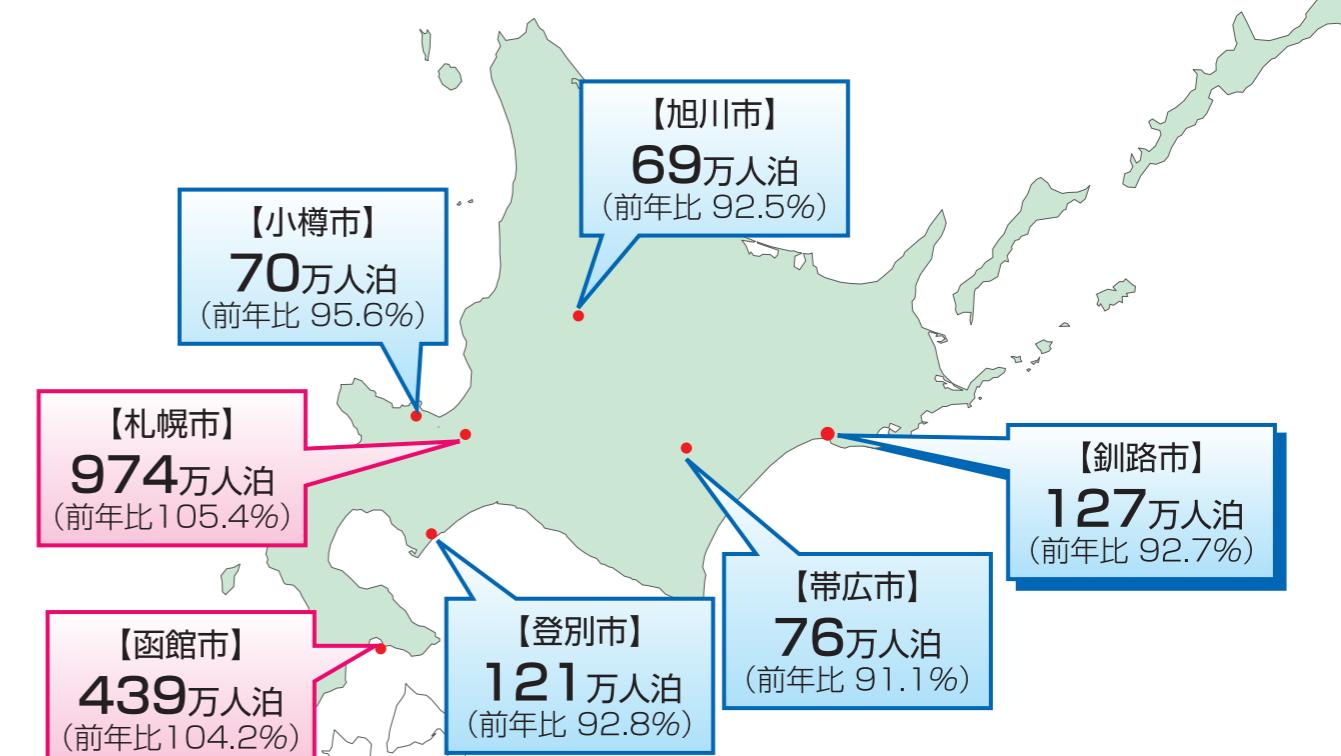
釧路市の宿泊客数は年間延べ119万人泊(2009年度)。札幌市、函館市に次いで宿泊客数の多い都市です。

過去10年を振り返ると、2000年から2005年にかけては横ばいに推移していましたが、その後は減少する傾向にあります。

【グラフ①】釧路市の延べ宿泊数の推移



【グラフ②】道内の主な都市における延べ宿泊数(2008年度)



データ出所:北海道観光入込客数調査報告書